

会 告

「農業土木学会学術基金」の募金について.....	81
平成 17 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について	81
海外の復興支援における農業・農村開発の役割 第 21 回海外事情講演会 (第 2 報) 	81
平成 16 年度研究グループへの助成	82
農業土木学会論文集投稿料の改定について (再々)	82
投稿原稿の閲読状況が確認できます!	82
「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き」の発行について (再々)	82
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	83
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め	83
農業土木学会誌への投稿お待ちしております! 小特集以外の投稿も歓迎します	84
新コーナー:「私の勤める本」の原稿を募集しています!	85
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集	85
農村生態工学研究会「第 1 回地方研究会」の開催について 	86
水土文化研究部会第 2 回水土文化研究会の開催について 	86
平成 17 年度第 27 回農村計画研究部会現地研修集会のお知らせ (第 1 報) 	87
国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について 	87
水資源学シンポジウム「国連水の日 気候変動がもたらす水問題」	88
農業土木学会論文集等 235 号内容紹介	89
学会記事	91

農業土木学会 (本部) 行事の平成 16 年度計画

農業土木学会 (本部) 16 年度行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中 () を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 17 年 2 月 17 日	国際委員会	第 21 回海外事情講演会 	復興支援における農業・農村開発の役割について	農業土木会館	73 巻 1 号

次号 73 巻 3 号予定

展望:「海外農業農村開発 貧困削減と平和構築を目指す」: 海田 能宏

小特集: 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発

貧困削減と平和構築に向けた農業農村開発協力の展開: 鬼丸 竜治他

JICA における平和構築と海外農業農村開発: 森田 隆博他

食料・水問題に関する国際的な研究活動の現状と展望: 高橋 順二他

ボリビアを事例とした貧困削減に対する新しい提案: 吾郷 秀雄他

アフリカ沙漠地域の農業開発について: 高橋 悟他

プロジェクト・サイクル一貫管理方式による灌漑農業開発: 佐藤 周一

講座: 生物・社会調査のための統計解析入門: 調査・研究の現場から (その 8) 分類する (クラスター分析, TWINSpan)

: 嶺田 拓也

小講座: 貧困削減: 八丁 信正

私のビジョン: 被援助国に学ぶ 謙虚な姿勢 : 志野 尚司

論文をかたる: 計測技術の進歩と工夫: 井上 光弘

農業土木学会関連行事予定

平成 17 年 2 月 15 日	京都支部	講演会		農村資源と多面的機能の維持 保全について		72巻12号
平成 17 年 3 月 11 日	農村生態工学研究部会	地方研究会			栃木県	73巻2号
平成 17 年 3 月 17 日	水土文化研究部会	第 2 回水土文化研究部会		水土文化の持つ機能と共有認 識に向けて	農業工学 研究所	"
平成 17 年 9 月 7, 8 日	農村計画研究部会	平成 17 年度第 27 回現地研修集会		豊かな農村資源を未来へ 地域が取り組むさまざまな 保全のかたち	福井市	73巻2号

学会誌 73・74 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1 5 0 0 字 以 内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 り 4 ペ ー ジ 厳 守)
73 巻 3 号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発		
4 号 圃場～流域レベルの水環境管理		
5 号 技術者資格の国際化対応の現状と課題		
6 号 大会関連 京都支部(仮)	公募なし	平成 17 年 1 月 14 日
7 号 現場における農業土木技術(仮)	平成 16 年 12 月 24 日	平成 17 年 2 月 15 日
8 号 農業土木の防災技術(仮)	平成 17 年 1 月 25 日	平成 17 年 3 月 15 日
9 号 農村における生物多様性, 外来種(移入種)を巡る現状と課題(仮)	平成 17 年 2 月 25 日	平成 17 年 4 月 15 日
10 号 農業水利施設のストックマネジメント(仮)	平成 17 年 3 月 25 日	平成 17 年 5 月 13 日
11 号	公募なし	
12 号 ブロック編集号	平成 17 年 5 月 25 日	平成 17 年 7 月 15 日
74 巻 1 号 おらが町の地域再生・町づくり(仮)	平成 17 年 6 月 24 日	平成 17 年 8 月 15 日

上記のテーマに沿った報文の投稿をお待ちしております。

なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。会告 84 ページに掲載されている特集の趣旨をお読みいただいた後、公募要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、1号に収載の「農業土木学会誌投稿要項」および「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

「農業土木学会学術基金」の募金について

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成16年度までに40件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円以上（何口でも可）

法人会員一口 50,000円以上（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名（社）農業土木学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

平成17年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について

学術基金運営委員会

農業土木学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成17年度は、規定第4条(1)の「特定の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業土木学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書様式をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申込下さい。

記

1. **援助の対象**：農業土木学会の会員（学生会員含む）、または会員によって構成されるグループ

2. 援助方針

(1) 農業土木に関して特定の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。

(2) 平成17年度中（平成17年4月から18年3月）に海外で

開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていない場合でも、申請は受け付ける。この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. **1件当たりの援助金の目安** 1件15万円程度を限度とする。

4. **申請締切** 平成17年3月22日

5. **報告の義務** 援助を受けた者は、学会誌に記事を投稿する。

6. **申込み・問合せ先**

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

（社）農業土木学会学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

海外の復興支援における農業・農村開発の役割（第2報）

第21回海外事情講演会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



海外事情講演会のプログラムをお知らせ致します。皆様のご参加をお待ちしております。

記

1. **主催**（社）農業土木学会国際委員会

2. **共催**（財）日本農業土木総合研究所

（社）海外農業開発コンサルタント協会

3. **期日** 2005年2月17日（木）13:00～17:10

4. **場所** 農業土木会館6階大会議室

5. プログラム

13:00～13:10 【開会挨拶】

国際委員長（岐阜大学応用生物科学部教授）天谷 孝夫

【講演】

13:10～13:40 復興支援における農業農村開発の意義

アフガンの水利用と農業農村開発

JICA国際協力総合研修所国際協力専門員 牛木 久雄

13:40～14:10 JICAの東チモールにおける取組み

JICA国際協力総合研修所国際協力専門員 大沢 英生

14:10～14:40 東チモールにおけるオイスカの取組み

- オイスカ (NGO) 常務理事 新屋敷 均 17:00~17:10 【閉会挨拶】
 14:50~15:20 東チモールにおける復興支援の取組み (社) 農業土木学会専務理事 岩崎 和巳
 大日本土木株式会社 日下 清
 15:20~15:50 スリランカにおける農業農村復興支援につ
 いて
 日本工営株式会社 井川 卓也
 16:00~17:00 パネルディスカッション
 パネリスト 牛木 久雄・大沢 英生・新屋敷 均・
 日下 清・井川 卓也
6. 定員 80名程度
 7. 参加費 一般 2,000円, 会員 1,000円
 8. 申込み・問合せ先
 農業土木学会国際委員会担当 (吉本・伊藤)
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
 E-mail: mineko@jsidre.or.jp

平成 16 年度研究グループへの助成

平成 16 年度の「研究グループへの助成は、研究委員会、調査研究活動担当理事会および第 190 回理事会 (平成 16 年 12 月 20 日) において、下記の 3 件を認定致しました。

研究テーマ：沖縄地方における赤土流出防止対策効果の流域スケールでの定量的評価
 代表者：大澤和敏 東京工業大学大学院理工学研究科助手

研究テーマ：油汚染土壌の熱特性のモデル化

代表者：須甲 武志 東京大学大学院農学生命科学研究科

研究テーマ：透水係数の空間分布推定と物質移動に与える不均質性の影響

代表者：井上 一哉 神戸大学農学部助手

農業土木学会論文集投稿料の改定について (再々)

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集編集委員会は、閲読料を平成 16 年度から値下げすることに伴い、投稿料について、平成 16 年度第 1 回委員会 (16.4.16 開催) および第 2 回委員会 (16.7.20 開催) で検討を行い、投稿料値下げを決定し、定期刊行物委員会の審議を経て、第 189

回理事会の承認を得ました。平成 17 年 4 月 1 日受付の原稿から実施いたします。

	改定後	現行
投稿料	16,000 円	20,380 円

投稿原稿の閲読状況が確認できます！

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲読状況がホームページで確認できるようになりました。

以下の手順で検索して下さい。

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) を開く。

「論文集」を選択。

「日本語」または「英語」を選択。

日本語の場合は「閲読状況一覧」、英語の場合は「List of pa-

pers under reviewing」を選択。

投稿した年度を選択 (受領ハガキに表示されている受付番号の上 2 桁が年度を表しています。例: 「04101」の場合は、「2004 年度」を選択)

PDF ファイルの「閲読状況一覧表」(受付番号, 閲読回数, 閲読依頼日, 閲読返送日) が表示されますので、自分の受付番号から閲読状況を確認してください。

「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き」の発行について (再々)

このたび、「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き (第 1 編 ~ 第 3 編)」を発行しました。判型、ページ数、販売価格は下記のとおりです。ご希望の方は下記までお申込み下さい。

記

1. 判型、ページ数、販売

「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き (第 1 編) 『総論』」

A4判 約210ページ 定価3,500円(税込,送料学会負担)
 「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き(第2編)『ため池,農道及び移入種』」
 A4判 約130ページ 定価2,600円(税込,送料学会負担)
 「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画設計の手引き(第3編)『ほ場整備(水田・畑)』」

A4判 約200ページ 定価3,600円(税込,送料学会負担)
 2. 申込方法
 郵便振替(00160 8 47993)または現金書留でお申込み下さい。
 3. 申込先
 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

**国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について**

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年12月末にはVol.2, No.4 (Special issue: International Year of Rice)が発刊の予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理,水収支,灌漑施設,栽培管理)
 - ② 排水(排水管理,排水施設)
 - ③ 土壌保全(土壌改良,土壌物理)
 - ④ 水資源保全(水源開発,水文)
 - ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節,地下水涵養など)
 - ⑥ 生態系の保全(水生,陸生動植物の生態系)
 - ⑦ 地域計画(農村計画,土地利用計画など)
 - ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境,土壌環境,気象環境)
 - ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換,施設園芸)
 - ⑩ 農業政策(農村振興,条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流,情報交換の場として、皆

様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

なお、PAWEESの第2回 International Awardsの授賞式が、去る10月21日、韓国・安山市の韓国農業基盤公社ホールにおいて開催され、国際賞(6名)、優秀論文賞(4名、うち沢田賞1名)、優秀読者賞(3名)がそれぞれ授与されました。詳細については、73巻3号に報告する予定です。

出版社: Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは、学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申込みいただけます。

農業土木学会は、300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが、現在会員数は272名(1月現在)と微増はしておりますが、いまだ目標会員数には達していません。そのため、編集業務を含め年間数百万円の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき、多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年12月末にはVol.2, No.4が発刊の予定です。

さらに、Vol.2, No.4(12月末発行予定)は、国際コメ年(International year of Rice)に連動した特集号となっております。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)

のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませ

が、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制：

- Editor in Chief : Dr . Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board には世界各国から新界の権威が就任しています。
- Managing Editors : Dr . Yoshisuke NAKANO (Japan) , Dr . Nobumasa HATCHO (Japan) , Dr . Yoshito YUYAMA

(Japan) , Dr . Ke Sheng CHENQ (Taiwan) , Dr . Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社：Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

PWE 原稿投稿状況報告：2003年1月のPAWEES設立から2004年12月までに、Editorialを除いて100本の投稿がありました。その国別内訳は、下記のようになっており、多くの国で認知されつつあることを、ご報告いたします。

国別投稿内訳：日本65、韓国17、台湾2、イタリア2、インドネシア2、フィリピン1、パキスタン1、メキシコ1、マレーシア1、スリランカ1、ナイジェリア1、中国2、ブルガリア2、スペイン2

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

73・74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第73巻8号～第74巻1号までの小特集のテーマ（予定）

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切（必着） （A4判用紙,1500字以内）	原稿締切 （刷上り4ページ厳守）
73巻 9号 農村における生物多様性、外来種・移入種の現状と課題（仮）	平成17年2月25日	" 4月15日
10号 農業水利施設のストックマネジメント（仮）	" 3月25日	" 5月13日
11号	公募なし	
12号 ブロック編集号	平成17年5月25日	平成17年7月15日
74巻 1号 おらが町の地域再生・町づくり（仮）	" 6月24日	" 8月15日

73巻9号テーマ：農村における生物多様性、外来種（移入種）を巡る現状と課題

平成13年6月の土地改良法改正、平成14年3月の新生物多様性国家戦略（新国家戦略）閣議決定、平成14年12月の自然再生推進法制定、平成17年4月施行予定の特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（特定外来生物法）等、私たちの周りでは生物生息環境を巡り急速な変化が生じています。

農業は生物資源を利用した生産活動で、その方法によっては自然界に大きな影響を与えうるものです。それらの営みは、自然のシステム、生物多様性に支えられているという認識に立って、十分な生態的・技術的配慮により生産性と生物多様性保全のバランスを保ち、農地、森林等の多面的機能を高めていく必要があります。

また、生物多様性において外来種（移入種）の問題は新国家戦略にも掲げられた危機の一つで、いままさに法制度が整えられつつある問題です。そのほか法の枠組みに留まらない取組が必要な問題として、国内で人為的に移動される在来生物への対応、生物多様性の保全の観点からの緑化植物の取扱い等も指摘されています（「外来生物問題に関する総合的な取組について」、中央環境審議会野生生物部会外来生物対策小委員会委員長談話）。このように、生物生息環境への配慮が求められるその一方では、猪等野生鳥獣による農作物被害の増加という問題もあります。

本特集では、広く農村生態系にかかわる問題について、農業土木技術者からみた現状分析および課題、先進的事例、ご意見等、関連報文を募集いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

73 巻 10 号テーマ：農業水利施設のストックマネジメント（仮）

ダム、頭首工、開水路、パイプラインなど農業水利施設は、わが国の食料生産を担う重要な施設として、戦後はその整備が進み、現存する施設は再建設費ベースで 25 兆円という膨大なストックを形成しています。

しかし、これらの中には、老朽化が進行し、これまで担ってきた役割を果たせなくなった施設、また、近々果たせなくなるであろう施設が多数存在します。昨今の厳しい財政事情の下、施設の機能を持続させていくためには、農業水利施設のストック全体を俯瞰した適切な維持管理と更新が不可欠です。そのため、日常点検をはじめとする定期的な機能診断や、施設を長寿命化させライフサイクルコストを低減させる補修・補強技術、そして実際に施設を管理する土地改良区などにおける管理システムの構築などが重要な課題となっています。

そこで、本小特集では、農業水利施設のストックを今後どのように管理していくべきかについて、会員皆様からのご投稿をお待ちします。なお、ハード面のみに限らず、経済性、意思決定手法などソフト面に関する内容も期待しています。奮ってご応募ください。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」を設けております。

多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ（1,800 字程度）で、写真を 1～2 枚程度入れてください。

新コーナー：「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、「私の勤める本」のコーナーを新たに設けました。

会員諸兄姉が、ご自分で読まれて非常に参考になった、視野が広がった、技術者として是非ともいろんな方々に読んでいただきたい等々、「私が勤める本」をご紹介いただくコーナーです。

また、自著をご紹介いただいても結構です。下記要領で、奮ってご投稿ください。

記

1. 原稿の長さ：1,200 字（写真・体裁等含む）

刷り上がり 1 ページ以内（原稿には表紙の写真を含めて下さい。）

2. 原稿受付：随時（メールでの投稿も受け付けます）

3. 送付先：〒105 0004 東京都港区新橋 5 丁目 34 番 4 号

農業土木学会学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail suido@jsidre.or.jp

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 18 年も皆さまからの写真で表紙を飾ることといたしました。つきましては、下記の要領で学会誌第 74 巻（平成 18 年 1～12 月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

本年もテーマを「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」として、公募いたします。下記の趣旨をご理解のうえ、多数の応募をお待ちしております。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受け付けておりま

す。組写真では、3～4 枚の写真を組合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. 趣 旨 これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人びとの生活を支えてきました。

特に人力に頼るしかない時代に施工されたものをはじめとする用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、わが国の気象条件

や複雑な水利用を考えると、構造物の設計や施工に高度な工夫と多くの労力が必要であったことが容易に想像されます。

それら多くの構築物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産ともいべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

例年の応募状況から、秋季および冬季の写真についても多数の応募をいただけますよう、お願いいたします。

2. **写真の種類** 単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルの場合は高画質で、ほぼ400万画素以上を目安に)、サイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。
3. **枚数** 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。
4. **締切** 平成17年9月30日(必着)

5. **審査** 審査委員会(編集委員と写真家)で12点を選びます。
6. **結果発表** 学会誌74巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成18年度大会会場でパネル展示します。
7. **賞品** 入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお贈りします。
8. **応募資格** 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。
9. **その他** 応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ)を記入して下さい。また、対象物の名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。
原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。
10. **宛先** 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

農村生態工学研究部会「第1回地方研究会」の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **日時** 平成17年3月11日(金) 9:00~16:30
(午前:現地,午後:室内)
2. **場所** 栃木県河内郡河内町
3. **表題(仮)**
ポスターセッション「全国の水田魚道の実施地区」
パネルディスカッション「農村生態工学に求められる役割」
4. **その他**
詳細は、学会ホームページ(www.jsidre.or.jp)に掲載します。
5. **問合せ先**
農村生態工学研究部会事務局(農村環境整備センター:鹿嶋,村山)
☎03 5645 3671/FAX 03 5645 3675/E-mail:seitaikei@acres.jp

水土文化研究部会第2回水土文化研究会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **研究会の内容**
日本各地に残る水利遺構は農村資源として注目されております。しかし、その活用への試みは緒についたばかりであり、未だ「文化財」(モノ)としての扱いが目につきます。しかしながら、水利遺構とは先祖から受け継がれてきた「水土の知」の結晶であり、多様な利活用が可能な「知の体系」であります。今回の研究会では、そうした水利遺構を有用・有益な「知の体系」として捉え直し、さまざまな場面での活用を議論していきたいと考えております。部会員以外の皆様の参加も歓迎いたします。学会員皆様のご参加をお待ちいたしております。
2. **主催**: 農業土木学会水土文化研究部会
共催: 独立行政法人農業工学研究所
3. **日時** 平成17年3月17日(木) 13:00~16:30
4. **シンポジウムテーマ** 「水利遺構の再発見と利活用」
5. **シンポジウムパネラーおよびコーディネーター**
 - 1) パネラー
 1. 原山昭彦(近畿農政局土地改良技術事務所)
 2. 浪平 篤(農業工学研究所水工部水源地施設水理研究室)
「流れのシミュレーションによる水利遺構の評価 鼻ぐり井手を事例として」
 3. 重岡 徹(農村環境整備センター調査部)
「水車はなぜ消えたのか? 佐賀県K町N地区の「美しいむらづくり」から」
 - 2) コーディネーター
山下裕作(農業工学研究所農村計画部集落計画研究室)
6. **会場** (独)農業工学研究所5階大会議室
7. **参加申し込み**
参加をご希望される方は、ご芳名、ご所属を下記連絡先へ、ファックスもしくはメールにてご連絡下さい。
8. **参加費用** 無料
9. **連絡先** 〒305 8609 茨城県つくば市観音台2-1-6
(独)農業工学研究所農村計画部集落計画研究室
(担当 山下)

平成 17 年度第 27 回現地研修集会のお知らせ(第 1 報)

農村計画研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村計画研究部会では、下記のとおり平成 17 年度第 27 回現地研修集会を開催いたします。開催県の優れた事例を見ることができ、農村整備計画の実務担当者に大変好評です。どなたでも参加できます。

なお、詳細につきましては、決まり次第、学会誌等でお知らせします。

記

1. テーマ：豊かな農村資源を未来へ 地域が取り組むさまざまな保全のかたち
2. 日 程：平成 17 年度 9 月 7 日(水) 研修集会
8 日(木) 現地検討会
3. 会 場：福井県民会館(福井県福井市)

国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について

テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

PAWEES 2005 International Conference

On Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



主 催：PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering

(国際水田・水環境工学会)

共 催：日本学術振興会、農業土木学会、韓国農工学会、農業工学研究所

共催予定：IWMI, IRRI 他

1. 日 時：2005 年 9 月 7(水)～8 日(木)
2. 場 所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール
3. テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

4. 国際研究集会開催の意義と目的

米は、世界の約半分の人口が主食としている穀物であり、波及する経済も考えた場合、地球で最も重要な作物のひとつといえます。特に米の主要な生産地であるアジアの食糧安定供給、貧困、さらに環境などの問題解決においては、水田農業の適切かつ持続的な維持管理の達成は重要な課題となっています。

2005 年 9 月に京都において開催される国際研究集会〔持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理〕を主催する国際水田水環境工学会(PAWEES)は 2003 年 1 月に設立されました。これは、第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題、なかでも非常に重要な役割を果たしている水田稲作農業を、流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直し、環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取り入れた新しい技術・学術体系として確立し、その国際化を図ることの重要性の認識に由来しています。学会は、設立以来世界各地の大学、研究機関、行政機関ならびに民間の研究者・技術者の協力を得て発展してきました。また、学会が発行している学術誌「水田・水環境

(PWE)」は発行以来多くの支持を集めています。

この研究集会は、内外の研究者のみならず各国の状況に精通した技術者や国際機関の職員を含めた、当分野において主導的役割を担っている者が一堂に会する機会となります。そこで、最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに、水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し、将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに、過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し、食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることも視野にいれています。

さらに、研究集会において水田・水環境工学の研究分野を主導する立場の日本と海外の研究者・技術者との過去に築いてきた関係国・地域、関係研究機関等との連携強化が図られるとともに、その他の諸国の広汎な連携が推進されることも期待されています。

このように、水田・水環境に関連する研究・技術に携わっている方々にとっては非常に意義のある研究集会ですので、ふるってご参加願います。

本事業は独立行政法人日本学術振興会(JSPS)の助成事業です。

5. 講演発表の募集

- 1) 研究発表を中心に、下記の 3 テーマに関するセッションが行われます。

セッション 1: 水田の多面的機能

(キーワード：正負の機能、外部経済性、定量化、政策とのかわり、など)

セッション 2: 水田の統合的(参加型含む)水管理と管理技術

(キーワード：流域管理、総合評価、参加型管理、など)

セッション3：環境・食料問題における水田稲作の役割

(キーワード：エコシステム管理，食糧自給，貧困，など)

- 2) 講演発表を希望する場合は，平成17年4月10日(日)までにアブストラクトを提出する必要があります。Science Committeeによってアブストラクトは審査され，その採否を発表希望者にご連絡いたします。

ポスターセッションはありません。

- 3) アブストラクトの提出は，Webサイト：www.jsidre.or.jp/pawees2005から申込用紙をダウンロードして，必要事項を記入し，E-mail:pawees2005@jsidre.or.jp までお願いいたします。

- 4) アブストラクトは，英250語以内(表題，所属，氏名を除く)です。

- 5) 使用言語は，英語です。

6. 主要なスケジュール

- 1) 講演原稿

アブストラクトの受付開始：平成17年1月1日

アブストラクトの提出期限：平成17年4月10日

原稿採択通知(e-mail)：平成17年4月26日～28日

採択原稿の提出期限：平成17年7月10日

- 2) 参加登録：

登録期間：平成17年1月1日～7月10日(7月10日以降の登録も定員に余裕がある場合のみ，研究集会当日に可能)

参加登録費：10,000円(4月10日以前に登録した場合のみ5,000円)

講演要旨集は研究集会当日にお渡しします。

7. 問合せ先

松野 裕 (PAWEES 事務局長)

近畿大学農学部国際資源管理学科

〒631 8505 奈良市中町3327 204

E-mail: matsuno@nara.kindai.ac.jp

吉武 幸子 (農業土木学会編集出版部長)

(社) 農業土木学会事務局

〒105 0004 東京都港区新橋5-3-4 農業土木会館3階1号室

E-mail: pawees2005@jsidre.or.jp

水資源学シンポジウム**「国連水の日 - 気候変動がもたらす水問題」**

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 開催日 平成17年3月23日(水) [国連水の日=3月22日]

2. 会場 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34)(地下鉄千代田線「乃木坂」下車すぐ)

3. 主催 日本学術会議水資源学専門委員会，水文・水資源学会，国土交通省水資源部

4. 後援 国内関係学協会

5. 主なプログラム

基調講演 「気候変動と水資源」(仮題)

報告講演～気候変動とその見通し，影響評価と水資源学

気候変化に関する最新の予測，近年の日本の気候変化，

近年の日本の洪水と渇水，気候変動と水循環・水資源，

気候変動・水循環変動が社会に及ぼす影響，気候変動・

水循環変動が農業に及ぼす影響

総合討論

6. 参加申込(入場無料)

平成17年3月15日(火)までに，住所・氏名・所属を下記参加登録先まで，FAX・郵送・E-mailにて登録願います。

7. 参加登録先

〒100 8918 東京都千代田区霞ヶ関2-1-3

国土交通省水資源部水資源調査室

FAX: 03 5253 1582

E-mail:mizcho@mlit.go.jp

8. 問合せ先

国土交通省水資源部水資源調査室

吉田，尾中，溝尾

☎03 5253 8390 FAX 03 5253 1582